奥鬼怒 温泉三昧♨♨♨

～鬼怒川湯沢噴泉塔・日光沢温泉～

平成２３年９月２３～２５日
Ｌ白土、釼持

鬼怒川の上流部・奥鬼怒に温泉が沸いている沢があるという。秘湯好きの我らとしてはぜひとも行ってみたい。遡行後は奥鬼怒温泉郷の日光沢温泉でゆっくり一泊するという、湯めぐり計画を立てた。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

厚木を前夜の２１時に出発。私は助手席で「運転を代わる」と言い続けながらもほとんど眠りこけ、女夫渕温泉駐車場に到着して起こされた。日付が変わって１時半だった。

朝は５時に起床。思ったより冷えこんでいる。林道を１ｋｍほど戻ったところに湯沢歩道の入口があり、ここから登山道を沢沿いに進む。立派な吊橋で鬼怒川を渡り、湯沢に沿って山道を歩く。立派な道標が立ち、草が刈られて整備されているが、ところどころ倒木や崩れた箇所があり荒れている。真新しい巨大な堰堤もあった。林道から９０分ほどで渡渉点に差し掛かり、ここで沢靴に履き替えた。数日前の台風の影響か増水している。丸太橋は無残にも流され、川岸でぷかぷか浮いていた。倒木につかまって何とか渡った。その後も数回渡渉があり、スクラム渡渉で通過。これでも減水したと思うが、遊歩道といいながらも一般登山者には厳しい道のりと思う。丸太橋は全て、だいぶ前に流されたままだ。

沢には切れたブルーシートの残骸があちこちに残り、ここが温泉か！？と期待させるが、湯気は上がっていない。過ぎてしまったのかと思いつつ、道は沢に降り、広い河原へ出ると、隅にコンクリートのブロックがあった。ブルーシートも残置されている。近づいてみると湯気が上がっていて、源泉からお湯が湧き出て窪地に流れ込み溜まっている。周囲の石は白く、硫黄の匂いがする。ここが「広河原の湯」のようだ。

窪地は膝くらいの深さで、触ってみるとぬるい。スコップが落ちていたので、どちらから促すこともなく浴槽作りに取り掛かった。溜まった黒い泥を掻き出し、石を組むとそれらしくなってきた。秋空が広がり、開放的でとてもよいロケーション。「ここに泊まるかぁ。」時計を見るとまだ９時だが、先週に痛めた膝の状態が思わしくないこともあり、ここで今日の行動を打ち切った。源泉はそのままでは熱いが、隣に流水があるので湯船に引き込むようにして適温にしたり、排水ポイントを作ったりと３時間かけて湯船造成工事を行い、最後にブルーシートを敷いて露天風呂が出来上がった。湯船から少し離れた平地にツェルトを張り、焚火を起こしてから露天風呂を見に行くと、葉っぱなどのゴミが無くなり、湯の花が溜まって最高の出来栄えになっていた。湯量もたっぷりで、じゃばじゃば注がれては掛け流されていく湯船に首まで浸かり、足を延ばす。「あ～こりゃたまらん。」

野湯を作っての入浴は初めてで、これ以上の源泉掛け流しは無いだろうと二人とも大喜び。他に誰も来なかったので貸切状態で、楽しい一日になった。夕飯は予定メニューを変更し、温泉水でおかゆを炊いた。独特の風味でおいしい。夜は満天の星空。「星の湯」で心身共に温まり、ぐっすり眠れた。

翌日は３時半に起床し、朝食を食べてからひとっ風呂浴びる。贅沢だ。今日は手白沢温泉への登山道（廃道）を経由して日光沢温泉へ向かうか、噴泉塔ピストンにするか迷ったが、温泉が今回の遡行の魅力の一つだったこともあってピストンにした。噴泉塔までは登山道が整備されているが、河原を遡行すると滝は無いが、へつりや渡渉があって少しは「沢」っぽい。トラロープが垂れているところもあり、遠慮なく使わせてもらう。途中、右岸と左岸一箇所ずつ温泉が沸いていた。左岸は通称「せせらぎの湯」と呼ばれ、熱い硫黄泉が沢に流れ込んでいた。卵があれば茹でられそう。

沢はゴルジュとなり、登山道もあったけど行けそうだったので左をへつって突破した。上流で崩れたのか、だんだん水が濁り水量が増えてきて、なかなか楽しかった。なんとここでも岩間から温泉が沸き出てゴルジュに流れていた。

ゴルジュを抜けると、硫黄で変色した地獄谷みたいな光景が広がっていた。２段６ｍほどの滝がかかり、その脇に１ｍくらいの噴泉塔があった。てっぺんを触ってみると、湯が染み出すように沸いていた。源流遡行ならぬ、源泉遡行だ。

この先を進むなら滝の左のルンゼを登るが、悪そうだ。ここから先が本格的な沢登りの世界だが、今回はここまでとし、ところどころ登山道を使って引き返した。「せせらぎの湯」で遊んだあと、テン場でまた露天風呂に浸かり、２日間で計５回も入浴して下山した。下山途中で温泉愛好家やスコップを持った沢屋など、３組とすれ違った。あの野湯に他の人がいたら自由に入れないだろう。１日違いでラッキーだった。

一度女夫渕温泉の駐車場に戻り、着替えて最低限の荷物で日光沢温泉に向かった。遊歩道を２時間のハイキングだ。途中の岩清水は、冬場は氷瀑になりアイスもできるらしい。途中、八丁の湯で私だけ日帰り入浴した。ここもとても良いお湯だが、大滝横にある露天風呂は大雪による倒木で使えなくなっていた。なんとまあ残念。加仁湯～日光沢温泉までの林道は７月の大雨で大規模な土砂崩れに遭い、大工事中だった。ちょうど今日から歩行者が通れるようになったそうで、ここにも異常気象の爪痕があったとは知らなかった。

日光沢温泉ももちろん源泉掛け流しで、２つある露天風呂は泉質が全く違う。白土さんは「好きな四文字熟語は“源泉掛流”だな」とご満悦の様子。建物は古い木造建築だが中は掃除が行き届いていた。宿のご主人はとても気さくな若い人で、柴犬も２匹飼われている。（親子・共に♀。）温泉に浸かり、犬と遊び、日頃の疲

れを癒した。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

今回は温泉三昧で、すっかり奥鬼怒が気に入ってしまった。おもしろそうな沢もいくつかある。湯沢は遡行したとは言えないが、これはこれで満足。たまにはこういうのもいいかな。日光沢温泉はぜひ再訪しよう、宿の目の前にある日光沢も遡行してみたい。

なお、山岳会の山行としてはだいぶ癒し系になってしまったので、「せめても」と噴泉塔までの遡行図をつけた。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

地形図やエアリアマップでは標高1,470m付近に噴泉塔があるが、実際は1,320m地点だった。あとでいろいろ調べると、古いエアリアマップに載っている「手白沢温泉への廃道」もどうやらだいぶ違うようだ。地形図を頼りに手白沢温泉へ向かっていたら、登山道を見つけられずに苦戦が強いられたと思う。実際に確かめた訳ではないが、「関東周辺の沢」の遡行図通り、噴泉塔の滝の巻いて沢に戻ったところに手白沢温泉に続く踏み跡がある、と思われる。行く人がいれば、参考にしてほしい。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

23日 6：00 湯沢歩道入口
　　8：30 広河原の湯
24日 6：00 広河原の湯
　　7：00 噴泉塔
　　9：00／10：30 広河原の湯
　　12：30 女夫淵温泉駐車場

【力作！広河原温泉】

【広河原の湯の噴出口】

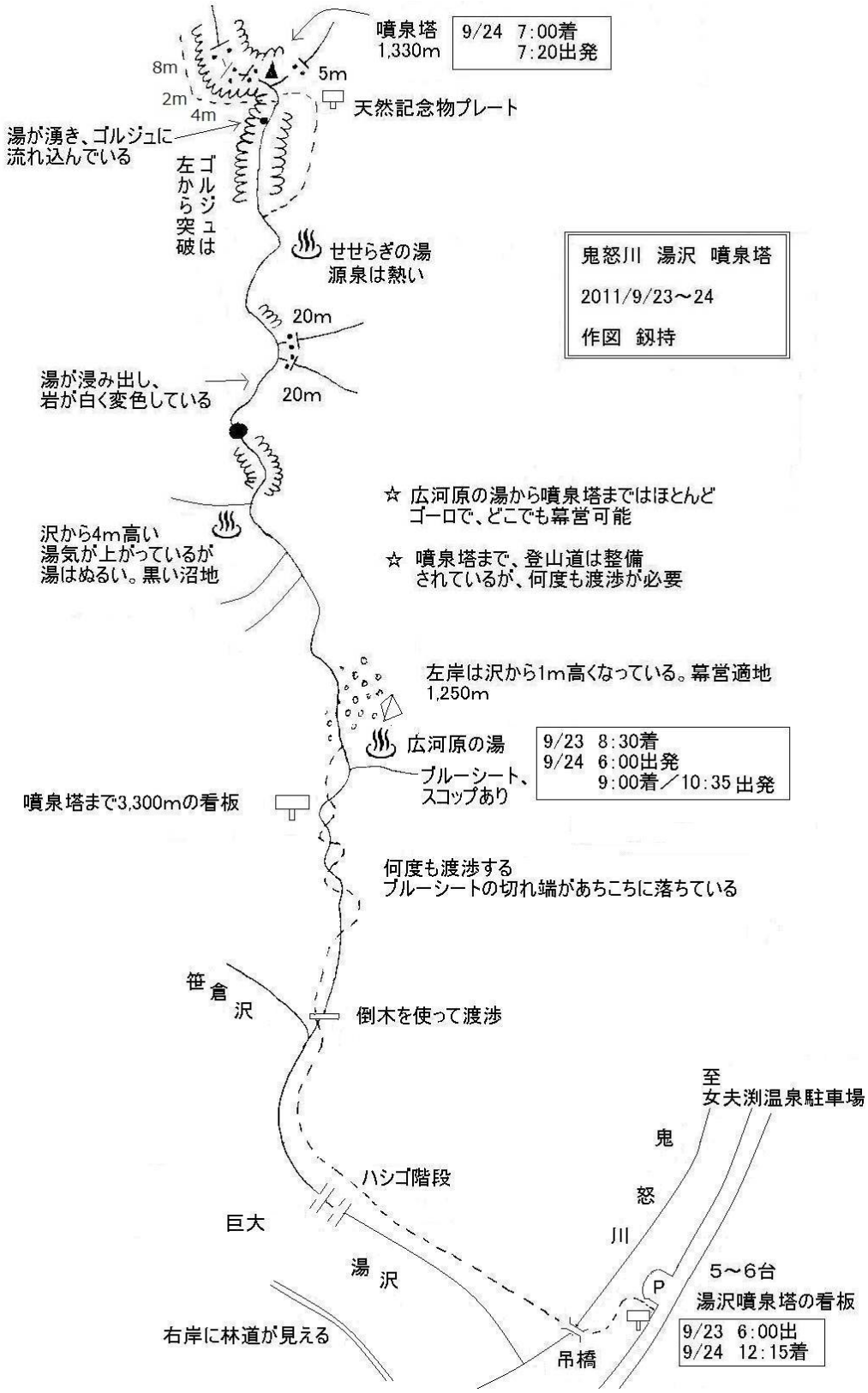
【温泉近くで幕営】

【噴泉塔】

【素朴な日光沢温泉】

【噴泉塔の周りは硫黄で白い】

【せせらぎの湯】


噴泉塔
1,330m
9/24 7:00着
7:20出発
8m
5m
2m
4m
天然記念物プレート
湯が湧き、ゴルジュに
流れ込んでいる
ゴルジュは
左から突破
せせらぎの湯
源泉は熱い
鬼怒川 湯沢 噴泉塔
2011/9/23～24
作図 釼持
20m
20m
湯が浸み出し、
岩が白く変色している
☆ 広河原の湯から噴泉塔まではほとんど
ゴーロで、どこでも幕営可能
☆ 噴泉塔まで、登山道は整備
されているが、何度も渡渉が必要
沢から4m高い
湯気が上がっているが
湯はぬるい。黒い沼地
左岸は沢から1m高くなっている。幕営適地
1,250m
広河原の湯
9/23 8:30着
9/24 6:00出発
9:00着／10:35 出発
ブルーシート、
スコップあり
噴泉塔まで3,300mの看板
何度も渡渉する
ブルーシートの切れ端があちこちに落ちている
笹倉沢
倒木を使って渡渉
至
女夫渕温泉駐車場
鬼
怒
川
ハシゴ階段
巨大
湯沢
5～6台
P
湯沢噴泉塔の看板
9/23 6:00出
9/24 12:15着
右岸に林道が見える
吊橋